

歌で心を開き明るい地域社会の絆をつくる声楽家 古渡智江さん



▲ ☆キラリ文化教室「楽しく歌の教室」

「楽しく歌の教室」の講師

当財団主催の☆キラリ文化教室「楽しく歌の教室」の講師をしている声楽家の古渡智江(こわたりともしえ)さんをご紹介します。自らピアノを弾きながら、課題曲を3~4曲決めて歌唱指導を行い、最終回にはミニ発表会を行っています。受講生の感想には、「正しい発声をする勉強ができる」「気分が盛り上がる」「知らなかった人と顔なじみになって、皆さんと会えることが楽しい」「先生の指導が素晴らしい、人生の見本です」「大きい声で歌えると気分がいい」「気にせず思い切って歌えるところが良い」等があり、リピーターの方も多く、歌の教室を楽しみにしています。

七色の歌声 ドラマティックソプラノ



▲古渡智江さん

古渡さんの歌声は、豊かな声質と歌唱力を活かし、オペラ・クラシックはもちろんのこと、ジャンルにこだわらず、何でも歌いこなす七色の歌声と称されています。オーケストラ共演のオペラコンサート、また国内外での演奏活動の他、地域とのふれあいを大切にした「お散歩コンサート」^{*}「かるがもコンサート」「チャリティーコンサート」や合唱・声楽・ピアノ指導・ボランティア等、幅広い活動をすすめています。

2014(H26)年7月1日に行われた川崎市制90周年記念表彰では、音楽を通じた地域の絆づくりが認められて功労賞を受賞しました。

家族の励ましの中で

幼少の頃、寝たきりのお母様が元気になるようにと、兄弟7人が協力して歌を歌って聴かせていました。そんな音楽好きな家族の中で育ち、中学や高校時代から近所の子どもたちへ、ピアノの指導をしていました。音大に進学し中学校の教員としての指導経験もあります。より音楽の道を深めたいという思いから声楽家の道へ進みます。歌を聴いてもらうことと共に、衣装を見てもらうことにもこだわりを持っています。幼少の頃は、着るものもほとんどない時代でしたが、お姉様が作ってくれた洋服を着て、学校に通うことができたそうです。大人に

なってからも、音楽の道に進んでいるので、華やかな衣装を着ることに、お姉様は協力してくれたそうです。

体の不自由な人へのおもいやり

30代の後半、原因不明の病気にかかり、下半身不随となっていました。でもハイヒールをはいて、再びみんなの前で歌いたいという強い思いが、原因不明の病気を克服し、現在のように明るくパワフルな活動への源になったとのことでした。

古渡さんは、自分の指導しているコーラスグループのメンバーと一緒に養護施設等へ歌の慰問に行くことがあります。メンバーの一員は、歌を聴いて涙を流してくれるのを見て、「もっと歌の勉強をしたい」と話します。お母様や自分の病気から、高齢者や障害者、体の不自由な人への温かなおもいやりの気持ちを強くもつようになりました。

古渡さんは、「いつも明るくて、悩み等がないのではないですか」と聞かれるそうです。音楽活動を通じて、まわりからパワーをもらい、つらいこともプラス思考で対応し、歌を通してまわりを温かな雰囲気に変えています。

ランチタイム ロビーコンサート

財団で毎月開催しているランチタイムロビーコンサートでは、2014年と2016年の12月に、古渡さんと「楽しく歌の教室」の受講生のみなさんによる合唱の2本立てでクリスマスコンサートを開催しました。



▲ランチタイムロビーコンサート

美しいハーモニーとリズムカルなクリスマスソングの後、すてきなドレスに衣装替えし、古渡さんの艶やかで迫力ある独唱が、観客を魅了しました。

昨年より川崎北ライオンズクラブの会長も務めており、地域に目を向けて魅力ある奉仕ができるようにパワフルに活動しています。

大勢のスタッフのみなさんのおかげで開催できた「お散歩コンサート」みたいなことが、またできる機会があるといいなあと、話されていました。

「お散歩コンサート」^{*} 1995~2013年の奇数月の第2土曜日に行われていました。第1回のコンサートから中心となって歌唱指導しており、「一緒に歌いましょう」では、古渡さんの楽しいトークと巧みなリードで会場からは、いつも大きな笑い拍手が湧きあがっていました。【2012.2.1発行 Stage Up184号より】